

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	横浜市南部地域療育センター児童発達支援事業所はらっぱ		
○保護者評価実施期間	令和7年11月4日	～	令和7年12月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和7年10月27日	～	令和7年11月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者プログラムの充実	事業所職員が実施する保護者勉強会に加えて作業療法士、ソーシャルワーカーによる勉強会も設定しています。お子さんの様子の共有は面談、書面でのやり取り、日々の振り返りなど様々な場面でを行っています。	定期的な面談以外でも、ご相談があれば随時対応させていただきます。保護者向け勉強会等の運営や参加方法について柔軟な対応を検討していきます。
2	活動プログラムのバリエーション	年間でプログラムを作成しており、基本の形態をもとに、クラスやお子さんの状態に合わせて臨機に変化させる等の対応をしています。新規プログラムを毎年導入し、事業所内で共有し更新しながら取り組んでいます。	プログラムを固定化させない柔軟な姿勢を継続していき、必要に応じて他職種からのアドバイスや意見も積極的に取り入れています。法人内の他事業所と支援プログラムの情報交換の場を設けていきます。
3	お子さんの特性に応じた支援	個々のお子さんの状態に合わせた環境設定、視覚支援、グッズの使用等を取り入れています。職員間、保護者の方とも共有して、振り返りと必要に応じて支援の見直しをしています。	既存の対応に囚われず、個々のお子さんに合わせた対応を常に検討していきます。研修等で新たな支援や評価の視点について学び、資質向上に取り組んでいきます。療育センター内の多職種との連携を図り、情報共有や助言をクラス運営に取り入れています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	設備面、人員の確保について	保護者、職員アンケートにも記載がありましたが、エレベーターが無いなど建物設備の不十分さがあります。また、療育センターと別建物であるため、臨機な人員対応が難しいことがあります。	ベビーカーの昇降など必要な時には職員が手伝う体制を取っています。急な階段のためルールを徹底して怪我がないように引き続き周知していきます。人員配置については欠員がいても維持できる体制を整えていきます。センターからのサポートについても引き続き対応していきます。
2	保護者同士の交流機会の提供	懇談会を実施していますが、保護者同士の交流を支援する機会は多くありません。	保護者同士の交流の場として懇談会を臨機に開催していきます。お子さんのみの登園日に保護者同士が集えるスペースの開放をしています。日々のクラスの振り返りの際に交流を意識した働きかけを心掛けていきます。
3	運営規定や非常時等の対応の周知	契約時に避難場所等の説明はしていますが、周知が不十分だと感じています。	契約時に加えて年度途中で改めて保護者の方に周知の機会を設けます。